

2019年9月30日

「ヤクルトCSRキャンペーン」を実施 ～ ヤクルトグループ従事者がMY「プラスチック・スマート」行動を宣言 ～

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）は、「プラスチック・スマート^{※1}」に対応した「ヤクルトCSRキャンペーン」を2019年6月にヤクルトグループ全従事者向けに実施し、MY「プラスチック・スマート」行動宣言の募集を行いました。また、本キャンペーンの一環として、公益財団法人オイスカ^{※2}の「子供の森」計画^{※3}への寄付、「グリーンウェイブ2019^{※4}」への参加をあわせて実施しました。

キャンペーンでは、「プラスチック・スマート」で推奨される“プラスチックとの賢い付き合い方”の12の取り組み区分「減らす」「広める」「拾う」「教える」「使う」「伝える」「替える」「戻す」「作る」「分ける」「凝らす」「究める」から各自が関心のあるものを1つ選び、プラスチック問題の解決に向けて、自分ができる具体的な行動宣言を募集しました。また、部署や事業所、販売会社等グループ各社における、組織としての行動宣言もあわせて募集し、グループ全体でプラスチックとの賢い付き合い方に対する意識を高めました。MY「プラスチック・スマート」行動宣言は、個人が22,985名、組織では128件の応募がありました。

なお、当キャンペーンは「プラスチック・スマート」キャンペーンの取り組み事例として報告し、環境省の同ホームページに掲載されました。

【CSRキャンペーン結果告知ポスター】



全応募者には、工場で発生した使用できないプラスチック容器を再利用して製作されたプラリサイクル品を贈り、リサイクル意識の啓発と、資源を有効活用する大切さを再認識してもらいました。

さらに、キャンペーンの一環として、公益財団法人オイスカの「子供の森」計画へ10万円を寄付しました。寄付金は、インドネシア、フィリピン、中国（内モンゴル自治区）の活動に活用されます。

また、「グリーンウェイブ2019」にも参加し、国内のヤクルトグループの工場と東京都国立市で植樹等を実施しました。

当社では、今後もグループ全従事者にCSR教育を行い、CSR意識の啓発を図っていきます。
なお、今年度のキャンペーンの概要は下記のとおりです。

記

1. 名 称：「ヤクルトCSRキャンペーン」（1994年より実施し、今年で25回目）
2. 期 間：2019年6月1日～6月30日
3. 対 象：ヤクルトグループ全従事者
4. 実 施 内 容：
 - (1) MY「プラスチック・スマート」行動宣言の募集
応募件数 個人：22,985名
組織：128件
 - (2) オイスカ「子供の森」計画への寄付
 - ①寄付金額：10万円
 - ②支援先：インドネシア、フィリピン、中国（内モンゴル自治区）
 - (3) グループとしての「グリーンウェイブ2019」への参加
 - ①国内のグループ内工場で「植樹」等を実施
 - ②東京都国立市との「植樹」に関する協働活動



オイスカ「子供の森」計画
活動風景

(写真提供：オイスカ)



「グリーンウェイブ2019」
兵庫三木工場での植樹

- ※1：2018年10月に、環境省が立ち上げた海洋プラスチックごみの問題解決に向けた取り組みを推進するキャンペーンです。消費者・自治体・NGO・企業などが連携して“プラスチックとの賢い付き合い方”を考え、その取り組みを国内外に発信しています。
- ※2：アジア・太平洋を中心とした地域で、農村開発、人材育成、環境保全を推進している国際NGOです。
- ※3：子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地に苗木を植え、育てていく活動を通じて「自然を愛する心」、「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうというプログラムです。1991年に始まったこの活動は、36の国と地域の5,180の学校に広がっています（2019年3月末時点）。
- ※4：国連が定める国際生物多様性の日（5月22日）の現地時間午前10時に各国の企業、学校、市民が植樹等を行う地球規模のキャンペーンのことで、国連が呼び掛けをして、日本では環境省、農林水産省、国土交通省も参加を推奨しています。

以上